

加
之
光

文政十二己丑歲

有遠度

曉鳥

地

非諸資料カ一ド

年代

文政12

編者
(筆者)

曉鳥

書名

加之光地

備考

立秋

立秋

塩煙を川に正しく今秋の秋

曆よりなるよき来さく今秋の秋

塩煙を川に正しく今秋の秋

小羽美や 俸の系一十夜

七月三日大觀堂



立秋

塩煙を川に正しく今秋の秋

七月三日大觀堂

身風坊

曆よりなるよき来さく今秋の秋

土田如麻の所を思さし 曉馬

月のより合りしを今秋の秋

只かきよのそを今秋の秋

玉糸とちりしを今秋の秋

板ノ木一かたなりともびらる 素凍

想飲のそんぞくも成陰諦り 河原

逆穢れ論も梳束、謔 梯史

→此より麻の糸より糸を汲み 呂政

定くる 神志の極極

以不方へ歸入の極、杉青

知れぬ物わけと上下

一足、乳少くもや痛てあゝむし乳

もやせうも文と水取の

川へとく 何と河濱の素綱の

ま公の杉青余程たふす

ちよとけり 菊も花あり 蒼むけり

にふり 杉青も 虫果 平等

若歌仙の一折

探歌

波に水波の中水はむ 桐栞 曉鳥

しよ海に母し之露をば授けし 身風防

市カキイニモ
星ノメ

身風防

まふ中よりと彩や合てん二つ 星

運ぬ侍りしはれ如肩後 梯史

巧中と海を松枝のうすく 素練

私のこゑあし陰の侍りし 喰鳥

生く存ふ物とて糸は海流とてや 存稿

竹むにすきこひ清風吾孫ハ 茶室

ナ

小止ふあふ深き月夜の隙に 雙車

室如ちかき成侍りて咲く梅 斗水

後梅よりし一月れ事とて先 文翔

列深し福水今を心し 伊原

わびくあふ移りてと無ふ水痕

地帯とわしと世りしとあ

第節し不徒の舟流の初水階

そとくは空く如くは夜々侍り

服のよの脚をきき年賦將素

あゝ〜〜〜小信工〜

西も幕も赤も幕の花乃と

三日の坊屋身けく義報子

古歌仙力一打

探題

そけ足原、新心の糸とさる鶴も 曉鳥

編書や物言けハ新く平も下

七月十八日大観堂

阿具

身凡坊

綿鈴と母も之翁とお撰哉

一月如秋もをよ下 所里 様史

小年首もを初也の念も坊の心く 曉鳥

何も尾籠も雪うも走もせ 石布

礼の履が初水で晴もく大の科 虫尾

垣の破もしても青も吹降り 斗水

葉肉〜〜〜まけハ新く尾を初後ケ 素衣

出雲の爲に神を
行交して流石の秘傳の孫茶
焼くく陶志堂万げ
い度如政日新成仲長
一葉細心生れ身の務しや
一室をまきく子孫は松屋
麻うりく遊みのをまきく
乃食を早の如くさく
糸端
双車
烏水
右橋
伊原
文相

酒への飛揚る前や
流る花も若木は心よ
日交りて空をまきく

抄紙
志堂

新島や酒をよ浮く二之輪
朝や雲梅をよく又日新
雙鳥

七月
良奥

調や改骨より中水低くあり 石布

物々々々々 三日月の跡を 舟丸坊

奥々々の山腹の突合 水々々 赤珠

折物々々々 水々々 唳鳥

井水々々 破鏡 水々々 塩の集々 斗水

謂水 あり 水々 松水 水々 水 長尾

焼 水 上 丸 水 水 水 水 水 水 泉 澁

菜 子 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

水々々々々 水々々々 水 水 水 水 水 水

石 水 地 水 龍 の 水 水 水 水 水 水 水 水

水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

奥 の 二 階 二 階 靴 水 右 橋

化 物 水 沙 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

相 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

産 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

産 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水 水

いゝ免しふ染も花の車海老 文翔

伊勢路の春如二つ河漕と

二ツ
道途はれ日揚るらん初曆

さししつしつと孫も甲斐

村割りの楊上かた松普徳

福とと難ふ等の何と目あり

知りしんもや中悪れま油取

又にも糸かき悟るもあふ

富貴よりき成傍しく麻子石合

又にもき成傍しく麻子石合

右歌仙の末歌

同日月

朝風や少き春如冬一きせ

なうふりし月の山の山作 兼心

まを信ふし春碓の春流く 暁馬

陶ぢりし碓はあいあり 矣路

多紙候てまゝ紙をちるる白
 右橋
 松那をうへに意保起され
 素練
 ちるる紙をうへに押れにきりし紙
 吉呂
 矢さしに空紙、表の細かき
 長尾
 焦け候へり候しうらほく女子は
 鳥水
 衣如也の表紙をうへに
 斗水
 衣をうへに淋しき紙をうへに
 楊史
 八重衣をうへに衣をうへに
 文朝

衣をうへに淋しき紙をうへに
 双車
 衣の胸と斗を軍師
 警川
 祇堂今より上は樽蒲市の所をうへに
 鳥川
 衣の尻をうへに衣をうへに
 鳥川
 衣の尻をうへに衣をうへに
 鳥川
 衣の尻をうへに衣をうへに
 鳥川

探題

衣の尻をうへに衣をうへに
 鳥川

七月廿八日又夜書
 尾奥

高き山に如き鳥居を挟み一帯の海 長虎

餘り清き月の丸西空 舟

禪を修成したるに迹あり 舟

清き徳の如く三小菴あり 舟

水如江の叶あり 舟

並木並松 舟

雲を穿てや 舟

新水清きと 舟

燈の内の悟氣を 舟

舟のふ小神 舟

此度日 舟

私業の多 舟

赤子 舟

茶 舟

舟 舟

舟 舟

行望し... 二月中旬

右歌仙行一折

日口伊予

吃焉

多一羽... 舞女

... 月のみ

... 舞女

... 舞女

... 双車

... 舞女

... 舞女

... 舞女

... 舞女

... 舞女

... 舞女

... 舞女

和奥

曉鳥

月夜ふか夜中の葉や雉の凡
 空をく福の中へ古里 伊波
 春の波下りし母の女、春く 舟月
 少彦系流石腹上春く 葉心
 引波し春く松の筋の 流 素流
 松上流くく一羽鳥の 夏松
 夕空の流く歌の 侍従と 巽 矣流

火をくく火河極きく 樗史
 達し春く流石の心も元の寺 思三
 加賀の隣りて流石也越中 鳥水
 夜毎日毎の松の心 斗水
 小柄の流く云号さ文 玉童
 流石の流く今も幕をく 右橋
 夕空の流く歌の 巽す 管心
 秋の流く歌の 秋の 秋の 秋の
 秋の流く歌の 秋の 秋の 秋の

左官のきみに如くともて
津川

ねく嘆くむれ時をわたり神
仙夕

小カイうちり 波流の波に類
文翅

えくよ二日灸の 利成今

源多孫も ちりて 弟女賀

血、井上 捨つて 谷うへ 血屋交

喜々表 紙より 喜る水 喜る紙

此水かよて 庚申し 利生う

又道しと ちく 志の 海を

屍きく 信の 己惚れ ちりて 今へ

右歌仙り末略

日知り神
良具

身は坊

移りて 日吟て ちりて 秋の 月

月欠 折る 十里 松系 素珠

丹まると 志の 加減し ちりて ちりて 奥酒

おしりて ちりて ちりて ちりて ちりて 思之

一人ありて何事をも福とぞ思
 伊後
 利生れぬありて可く観る 菊
 隆くも盛るも各の言を皆く 梯史
 浮くも沈みぬ 菊佐津麻 其松
 争ふも本過のむしと名ひおし 院鳥
 流るるも思ふも又流るる 右橋
 張る糸糸橋 花の比 鳥水
 空を花花橋 如く 芳近 心 空 双車

行勝り 法監公の心と先とさ 音と
 広屋に身子の板敷ぬく先 壱川
 猪の火乃 法上何やと老と云 百臺
 山白州と 雲水ちとく 仏父
 長目の投しおし梅 光平 斗水
 山部氣をうさ 雲松の意 雲 文雄

大龍寺の書序一紙

探題

おと疎而此之文く人集
美月一むじ成かへり疎ふ
云貴や吾云傳七ふ心伝

前編 大教堂

東山坊

むしやや寂を家上抄ふ
本行うし文原月の臨むき
何處も望毛見沙流引れ枝止
提かへりの札、
斗水

くしとぬすい飯付初ぬ客
ちへり種ふ極の系抄
むしときり吹きうりき
高菰もあはせり此流系
因縁の長如神と脚
山
下殿今時身今今
松枝軍ふ大山忠城

石部

右橋

喰鳥

市家

鳥水

伊波

文翔

高上射之矢女之望ふ事も
酒買ふ事もさかすか
起原火之燈もさかすか
降るも雪もさかすか
射る花もさかすか
さかすか 葉店もさかすか

白田
郡奥

衣掛表作し門二茶の海也 身凡也

揚子之似如子のかた
茶の味のさかすか
抄到水ぬ今懐く云作り
鳥水
伊波
茶の味
奥澄
石希

振り流布の意字此は流石多果ハ
噴如激と突の激と 布考
中々流く元一却水ぬ花の香
文相
和くあぬ流水さうく
ま

本能奇あり一折

探歌

苗さびや心甲しをよ麻の髪
先連の物ねとるく原出中系
望馬

麻啼や捨しけとあ波抱下馬
身風坊

月次の和し各完くしを程けゆる
多の如くは舞は度と
あぬをよまのやめ流のさるれ
いさく全く舞はる日をも流法まの
身物と方しゆらふりあはさ
言ふ大観半と相情しりて

まゐる

思ふさあさ及や諸をて信り丹交
葉月如元一海ふつと
身風坊

何れか孫の幸も子生孫も
 様使
 所へて海に云就あり
 糸宮坊
 年子系下女も秘来の浅水より
 石席
 塩之有九豆の上麦十
 伊波
 蓋物の海やうも舞舞不尾張碗
 奥波
 上も下もくもお清くの橋
 其松
 かじりも成るる言も此極も度さ
 身く
 以後も白服で床の達不
 院馬

吹かふ涼山虎のむらぐと
 院路
 物面意好くして百お目
 文翔
 寶く印金もをを海家の以て又
 小井い小玉うく
 打不祥の
 中水く病もゆ衣如溪のそり松
 音も在るもあな下の白
 酒も花信もせくも音さく
 歌も存好ももろもり表

嗚呼早稲の長におお月
櫻子伊と能りしとありて
漸むに社々事々を公事と
生甲斐の所々事々を公事と
社々事々を公事と
捨合も事々事々事々事々
橋も事々事々事々事々
貴皆も事々事々事々事々
民故

運水法中七有外の七年
夕櫻の情紙と花紙とあり
わらじ紙の事々事々事々
伊渡

志能奇の一本
大敵

身月坊

沙青やあしあふれし
二見の浦と釣の鶴猿
若穂仲と味の淡く
石帯

如新牙... 雲陰
室乳子... 斗水
瀛... 思之
婦... 辰辰
何... 茶湯
包... 妙車
... 鳥水
... 鳥川

... 伊溪

... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪
... 伊溪

右歌仙行一打

少言や秘紙揃く至く新巻 喰馬

抄御上并器の形を所と画

小治免きを湖之如喫くも新巻

八月十五日に著る矣富

獨居の保室に訪ふもふくは長巻を
心んとつてを辭れんもかしく
かちり人ふおろしきかす所も其為氏
はりのぬしより下謂者花実の

そよよを扇の傳ふ於客舎を種彦を
あんと消息はれしく急連成紙
心とあひおきあてけと鳥籠の如
ふとここのしく居るは町守を
ちふとさうと居中の筆目と白巻
の玉を透ぬもそと松蔭のまふし
はくあふ白團とを其鏡の総
つと揃くま福くしと位系とや
云んとあしく泉今ふ中も湖と
親多於法免とまきふと信念と

多利をふりて祭

身内坊

何と云ふん此糸の月今も此月

松沢のやうに凡し次や、近思

少許多ふ柳の葉の捨らふと、素凍

買りあふ屋敷の玉細く見せし、鳥川

川水と濁らふと流石女子と、妻を

茶漬を素湯に沸かすや、奥路

伊豆此のやうに物とて来、養史

羽のくちや成るよとて、櫛史

交領しを、清ふ入袂の左が將、右橋

七百近ふ、或糸如土、双車

飯店、本店も、志と利き、石布

云ふふて、つら、ウツスアリン、魯

説法、い、い、成、ま、ま、と、飛、と、せ、兼、心

内、時、知、く、様、と、グ、ウ、ウ、く、其、松

甲、如、也、を、鬼、界、と、清、し、遠、福、と、民、政

蝶松のけしきと文字どおやう 蝶鳥

昔のまゝに新緑の光を大まかに 子原

うらやまの儀に 柳のくさ 文綱

志音松の一本

多詠

石月や媚て美観しとるも奥 民治

ふくみやまけふのまよひとて所 夏松

松竹の自然なまをふくむの月 文綱

力入らぬ言の跡はまよふ今月 石布

春を感て懐くまよふやまの月 鳥川

人想を文福と傾くまよふ月 茶室

石月や粹さし 懐くまよふ月 義史

石月や松をまよふと捨らば 奥浩

石月やまよふとまよふの月 様史

石月やまよふとまよふの月 春

石月やまよふとまよふの月 太橋

見儘セー一木と新しき多如月 近
行ふとそと酒は遠く今日月 双車
衣如月の後まきし二如杖 素凍
松さくも麻松をさく似る月 素衣
盗人の少はを留る多如月 喰鳥
杆明如星銀一しやきよのり

二月十日、於中
三本如法光と作んとし
同をとおきしと書方の佳句

引登宗所とゆく室の境とに
まがき流流ひゆ

室如月と碑月曲けとく十如杖

氏鑑

糸一しきも又一瓢の古酒 身因坊
毛之少はもかした新世のふとまき 茶臼坊
石を登格とちんを繩張り 喰鳥
つらぬらちとまは云隠し千し 素凍
格とつ所通さぬの心身とく 音

空をゆくく湯豆湯、何れも
南 祥寺うゝ 攝八の禮 右席
子紀の元と痛ふが 乳と病 右席
松高人の如 手費甲を 採史
呼と病も成 子正母老女 鳥川
釋ふ美善子 湯の好祭の
いふと云と多 抄の 南風
流れ 奇とと 行爲 和と也

修屋物を 現在 船の 少由組
俗の 年法、 老の 福如新
志か 如 長と 如 水 如 如 如 如
山 溪 如 如 如 如 如 如 如 如

右歌仙の一抄

尚席

見失ふと 飛羽 又之 川 十六 史 喰鳥

八月十八日 大観堂
尚書院

菊の善如友と遊ぎて居る月 身月坊

松風かよふ風煙と足原炭 葉白

春多くはるは流の多たくと 右橋

花ぬ鶴鶴如をしくう茶 喰鳥

おれしの遊りあまると遊屋うと 素凍

菊の口のまゆも初法取 鳥水

おれもくも次牡丹の咲かり 普く

はるもくもまを喰ふ建つ花 汁あり

説法成方けハ珠教標る氣と語

越後と云ハく春く人系

傍路り御り喰く御水居

要害深上殿の穴城

強くて又傍の響るおれ室志おんせ

糸をかまると菅檜のさき

そ中しおゆり扇とどろりく扇

楊梅のまを種とく藍二麻尾

出代りも 公ひくの花之流
小塚 藤も 春 矣 塚 藤も 春

右 奇 似 たり 一 打

様 取

白子 杉や 薨 けを 寄り 又 ち ち
女子 も 一 座の 掃 除や 萩の む
初 戸や 凡の 吹 不 定 了 矣

八月 廿 三日 大 観 堂
副 奥

む 憂 け ぬ 著 ね け け け 萩 け 不 春 凍

葉 席 支 度 七 月 の 外 金 菱 喰 鳥

青 の 房 を ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 葉 白

小 汐 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち 奇 呂

多 脚 と 小 小 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 水

藤 枝 小 枝 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 身 同 坊

美 人 村 の 事 を 思 へ 八 重 花 む じ 思 へ

若 也 現 じ 揚 じ 巨 勢 け け 双 車

御縁て御まをり候の御縁
かの雲深も近し涼軒
焚火をておき候まをり候
海もあはれ候まをり候
海もあはれ候まをり候
誇く物の御縁をり候ま
伏せ候まをり候まをり
王もあはれ候まをり候

外角に極成生うく店先
凡縁に離志希有

日
日
日

太歌仙あり

双車

傍水に連まらば
二百十日に
三つ折上
あつ川

好醜の好も心はまはるは
清風 細くまはるは
移れ雲の空と軟く一本松
わが心は情のわがるは
立ち金槍深た水は
流るは 西のそと
陰のそと かくと
おのそと 草土夜傍の文系

右能奇行一折

連歌

おのそと 福や 新の 下
多勢の 精もや
清風 下と 石の 船子の 福
深の かくと 漸く
おのそと 飛海金の
月の 海と 波と 家床と
思之

多建水の徳の如き喜打張式 吉品
年一度掃りし徳十度系 布衣
板瓦の海より信以徳と云 素練
余は如徳より清く抄り書ふ哉 嘆鳥
徳中より全別抄したる書 丹丸坊
丹丸坊の歌
板瓦の海より信以徳と云 素練
故らふ徳より月如長旅 茶心

減り毎年の多新書書如猪口と 鳥水
清如水より清く抄り書ふ 布衣
新より清く抄り書ふ 嘆鳥
此等のもろもろ 徳如徳と云 吉品
種系もろもろもろもろ 不登
節日 汝志 青 汝山 丹止
節日 汝志 青 汝山 丹止
節日 汝志 青 汝山 丹止
節日 汝志 青 汝山 丹止

糸ももたかどしお泉ももた
糸ももたかどしお泉ももた

お泉ももたかどし

連歌

荷物のち際まきし秋の多
糸糸
朽木や空もほれ秋もあふとる
鳥鳥
輝の面や花の影も空もあふとる
鳥鳥
長き橋とる空の橋や秋乃雨
鳥鳥

辻をまきし糸糸ももたかどし
糸糸
若水ももたかどし秋の多
玉玉
水橋ももたかどし秋の多
鳥鳥

佳節

花揚くして糸糸ももたかどし
糸糸
汗の多ももたかどし秋の多
鳥鳥

九月十日 松本琴堂 旭柳舎 宛 和歌集
一冊 追善
鳥鳥

麻之月や夢なる水の夢なる所

身自訪

文一とむし忠の親とくふ今在

拙象

田毎く流しあはるるく

民如

鳥を鳥流るる流る流る

以夕

茶子屋の行ふと登の指事

其松

女まはたけの如く流る

茶白

河原より右解如香の言ふ

文淵

上根より下流し

石廊

鳥水も流るる流るる

鳥川

八苦の海に流るる

仙里

桃行の消水は花の香に似

素凍

川水は流るる鳥帽子並

様史

大膽系に解るる

寔史

暮れに流るる一心不礼

其芳

温泉の流るる子とく

其山

行きて、似れ流るる

其山

花柳と云ふは、わしく有りて、
才を以て、わたくしと
尾形、信田、
藤、柳、
山、
柳、
追、
好、
批

右程記

花

花柳と云ふは、記念の月

批

花柳と云ふは、花柳と云ふは、

花柳と云ふは、花柳と云ふは、

花柳と云ふは、花柳と云ふは、

花柳と云ふは、花柳と云ふは、

花柳と云ふは、花柳と云ふは、

大六分表

碑文

石もよく考もよくうたはしと馬鞍と
加しとふや命と天と石と
長安豊土とよくたふと石と

少如者もさあそく天如の月輝と 柳舎 記

余皇

輝とこや庭とあはれと古海と 仙里

你句けハ月輝けハ 皇 花文

竟日娘とて 秋とて 神行とて 高心

太守也

とや 小祥 周の志居と如し
柳舎流和雅とれ美衣とせ
所ふとそとくゆとけ行とそと行
記就のまそと記しと 梅香

高とそとそと 高とそとそと 高とそとそと 高とそとそと

九月十三日 於大觀寺
尾奥

后九月やる月を著る。吸纏身の

名前の如く延——以秋 様史

状一書一の行——云傳く 素練

之文——刺を別行—— 素冬

掃酒の——刺を別行—— 素冬

格末なるが様——く—— 鳥川

あふれ果るる音の——く—— 曉馬

今ふ若好定——極楽寺 不重

縁階——く——すやま 文翔

赤青と河の極成屋根—— 茶心

汐老と——く——使者の老 逸松

心ま——く——新玉の—— 鳥

七維奇方一也

釋弘

澄むや款——く——形の—— 月 曉馬

九月廿七日 於汲水園

文仙是子若夫一一第月不偷報の
誕辰と云ふ事ありしれり此れを以て
批政の仁徳普く玉中と嚴然たるに
放く作す此せざるもの如くやきま
た月花の及んば身中よりあり
清純なる如流葉呼ぶ念願延と
あつく音仙乃の一老成得て新くと
あふまればあり

身中より一放く此れや流葉なる

身中坊

禱系 雲 伴 月 日 蘇 賣 山 深
遠 せ る 雲 々 松 枝 傳 々 一 相
一 望 先 々 々 又 一 望 塚 其 生
人 毎 一 概 々 出 々 々 々 々 々 々 其 松
女 房 抄 々 々 々 々 々 々 々 月 宿 鳥 川
か 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 以 夕
初 蘇 々 々 々 々 々 々 々 々 石 席
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 一 碩

まかりと連

樓

右橋

従文の多きりし道傍てり

中七死就

仕形をとりぬれん

可憐

葉山ふもとの月影

曉鳥

海の中へ

兼白

蓋心く

多き

新鹿さへ

歩高

石竹の乳母

東郭

まゆみ

逸松

みづの

差太

いづ

赤線

ちきり

春菜

子星

曉鳥

鉄別

子北より記す
所も乃様候

さく玉砂

新中候

苗也の字書

秋の夜

玉華

行

馬

新

結

文

右教公行一州

信を承りて用と起し徳を人々
仰せ給ひてしむとむくあれう系
あふふ事或く勤仕の志を
かふ鳥川雅英と都和を統し
送るを初めにして折るる
京物と蜀産の古慕
祿厚し

偃せやそ達のの凡そちかき事

嗟焉

十月十二日 於長世務会
芭蕉意

年々歳々 翁之の無武以り此
わきとてしむとむくあれう系
仰せ給ひてしむとむくあれう系
あふふ事或く勤仕の志を
かふ鳥川雅英と都和を統し
送るを初めにして折るる
京物と蜀産の古慕
祿厚し

道の空を渡る鳥

逸松

花をよめる鳥はく日如鳥

とくく 往來 往く 往來 身風切

流かきし 舟よきく 舟今く

津より 舟よきく 舟今く 成松

流るる 往く 往來 往く 以又

とくく 九夜 往來 往く 往來 古有

雲より 往く 往來 往く 往來 茶室

外山 生れ 往く 往來 往く 石布

往來 往く 往來 往く 往來 斗水

とくく 往來 往く 往來 往く 往來 往來

往來 往く 往來 往く 往來 往く 往來 往來

往來 往く 往來 往く 往來 往く 往來 往來

往來 往く 往來 往く 往來 往く 往來 往來

往來 往く 往來 往く 往來 往く 往來 往來

往來 往く 往來 往く 往來 往く 往來 往來

鳴く乾土の子に砂を
流す
名もきりと嘆 備ふ桃の比 曉馬
壁の世話に乳母も雇ひぬ 音と
まを産も年玉をたし何とぞ不 衣櫛
長市女店のまを産のまを
まのまを嘆とまを 沖つけ
楢新を産ふ一巻を蔵と指し 百巻
誰に望藏甲に攻伏の旗色を 芝徑

二月の月を男帝佐と 楢史
文川の朝に津くしとま 巻
まを産とまを産のまを産 知水
梨の産とまを産の産とまを産 文翔
笑つては涙じると女護り流
産家とまを産の代産と目かまも
まを産とまを産の代産と目かまも
三

年々 五月と云ふや物高に後
禪の化略と御中 毛ワ工 辻

垣上 新日如親とちり

培い じりく 強に ありき 素練

手向の 白くも ちりぬ けり 批者

左 奇 仙 伝

右 持 子

も せ 妙 意 や り ぶ ぶ ぶ せ の 友 と 楚 辰 辰

翁 意 や 海 光 上 嚙 尔 袷 布 紙 衣 以 夕

翁 意 や 翁 上 尾 籠 の 傳 く 物 文 翔

松 尾 意 と 翁 上 尾 籠 と 松 尾 傳 右 柳

昔 意 翁 意 や 翁 上 尾 籠 と 傳 く 証 三 有 右 有

小 意 翁 意 や 松 上 翁 上 尾 籠 の 意 斗 水

志 翁 意 翁 意 の 意 化 翁 翁 意 日 芝 蓮

折 翁 意 翁 意 の 意 翁 意 翁 意 の 日 玉 石

折 翁 意 翁 意 の 意 翁 意 翁 意 の 意 翁 意

舟楫の思作と舟の思日と此 空馬

舟文略

翁志や茶のくく白の曲帝地 耳尻坊

文茶有双不右元
流氷

可家

逸松

遊馬

遊馬
右舟水
泉流
系史
松花
系練

遊碑

少山と谷とよ梅屋下のあり
ゆきゆきのゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ちか良のあしおのあふせの松ととと 吃馬

古川と大観堂
石泉

舟尻坊

舟安の舟行舟舟 流の舟舟

舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

二味線の折草と柳と世傳くと
 流石の賢もたけ流石の女も
 柳とつくと今別と母の月如輪
 暁鳥
 多し 柳も女もいと漏矢
 飲くもと云はれど心も未法も
 移ると病、廊の柳と子
 どんとと入おえれ去連と
 子弁の美も云と云く

嘆く花しつかり流石の幽子
 松のこころの葉もいと色も

古経音の一本

連歌

本巻や山林の春仲夏
 本巻やうたはれぬお今
 本巻と云はれど心も未法も
 本巻や山柳も女もいと漏矢
 暁鳥

下化薬のしつとる白くふる白哉 笑鳥

草上への画

連も流むを岩田の輝日和

共松年其水七十頁

高き路

仙居
定朔

かもし志乃くをまぬまや松の茂

松の茂 上への頁也 なるかぬ今も候

舟の形 舟の形 日新 舟の形 なる

其水
流文

舟りくも水二羽の舟り

舟破

舟楫類 舟の形 なるを福ふま候

舟凡

小舟行あるは 舟の形 なる

舟尔

月の輪 舟の形 なるを福得の吸煙

一舟

舟 舟の形 なるを福得の吸煙

舟凡

舟子 舟の形 なるを福得の吸煙

舟凡

二人舟物 舟の形 なるを福得の吸煙

舟凡

舟 舟の形 なるを福得の吸煙

舟凡

福新瓜の葉に波してさるる

七段

妹上負きも如きぬ川の中なる水ハ

水

湯の禱交さるる取上るる

水

ちりく水流き流るるくさるる

宮前

名田山流くきる物の市

島川

肌流くむるる水乃入水

美石

いま江流とるる水江流

西流

きんを流く水日の出

文翔

流るる水の海を川

身水

流るる水の流るる水

素水

流るる水の流るる水

双車

下天組の流るる水

石岸

流るる水の流るる水

茶心

小体の流るる水

夢境

曲者の流るる水

夢境

つぎの流るる水

逸松

沖、滅くくくくく

佳歌

以流の身々々々々々

望流

古今の如態態態

望島

今更に実々入々

以父

流々々々々々

操史

辛二仄上々々々

音々

流々々々々

音流

中込の由々々

年以流

中和入和上下海院

系流

右奇仙行

標題

那更の為人か

本巻や新々々

日尚々々

高巻

流々々々

音流

洞水ぬ一河如流の如く安堵 曉鳥

水鳥

流くや敷きまきまかたの流るるも
こがしや流るる水の流るるも
新とふるる常や子一みゆる
さしや切くゆく凡の念
空の如くや行きてゆくも

水鳥の思

きまの如くや流るるも

水鳥の思

流るるも流るるも水鳥の思
流るるも流るるも水鳥の思
いふの思ふも水鳥の思

流るるも流るるも水鳥の思

水鳥

流るるも流るるも水鳥の思

流るるも流るるも水鳥の思

流るるも流るるも水鳥の思

望し〜とぬ〜て泡の湯〜の一碑

ち〜と〜と水ぬ杖木如脂 与蓼

室一〇一〜と〜とやとや水室丹 赤部

印ふの〜と〜と整と折片 折子

祓力のあ〜と〜と大江山 鳥水

赤部合し馬と〜と 赤部

物〜と〜と月〜と〜と 赤部

相〜と〜と物〜と〜と 赤部

〜と〜と〜と〜と 赤部

想結と連を部水あ〜と〜と 鳥白

う〜と〜と何や〜と〜と 赤部

深〜と〜とや〜と〜と 赤部

又下〜と〜と〜と〜と 赤部

〜と〜と〜と〜と月の新 赤部

〜と〜と〜と〜と 赤部

〜と〜と〜と〜と 赤部

〜と〜と〜と〜と 赤部

一丈上を
しんと
第一の
位を
とる

大倉の襟ははるも永少、

志く水は流の幕を出入、

ねさ七次穂尾くかき松尾

白雲 漸く上を 一基を 可涼

科 中流くやふくやふく

名を 凡く水を 多法天琴織 常司

床場くむかひかたきぎん

津が 穂尾 ぬく 洋列 一歩

は白の七平せしおかきかたき洋あつし

約 一かきく月と約

中 一列 やく 洋縁の 柳

穂 一公の 雲 盤 雲 一 字、 新

今 一 名 一 名 一 名 一 名 一 名 一 名

穂 一 穂 一 穂 一 穂 一 穂 一 穂

雲 一 肩 長 の 中 一 新 一 紋

塩 一 水 一 水 一 水 一 水 一 水 一 水

穂 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

穂を
穂の
穂の
穂の
穂の

穂の
穂の
穂の
穂の
穂の
穂の
穂の
穂の
穂の
穂の

法多しあやんと合さし一人法 如石

脊十の馬し一馬きお水取 骨名

藻位替く煙し月の浦接ふ 密安

志人浪者し旗如印し 念水

旗如やしし水這の岸しお 碩家

音うしあふしうとあささる 嵐夕

凍しし後し消しきる花如の 辰臨

のり如小新如沸し沸然の 佳山

この浪者し旗の印しし水這の岸しお 旗如の印しし水這の岸しお 旗如の印しし水這の岸しお

ナシ

吹折れあき書し流るはちちと 望和

吹折れはちちや二十六日 申甫

着極し蕨流男とくま物と 分比

千ニフニカンて存し度千ヤルメラ 其宗

吹傳ふ以しきくしとせしと 比流

形く下傳とありしはあ 永高

起き如く縁越跡のし片 睡が 砂音

形く下しきくしとせしと 一席

吹折れあき書し流るはちちと 吹折れはちちや二十六日

酒會の百部と云ふ一説あり
其の初めは連糸の連糸なり

其の死せしむる亦多し

任同

喰鳥

友姓と又若く雲水花の差

誌礼信止上高水今年

他多事不事と云ふ一説あり

市之新有るは牛連馬行水

抄の捨す一人形の水を居り

逸松

文翔

抄水

室水

抄水

室水

抄水

室水

行中級ありと云ふあり

新くもや事ありと云ふあり

鶴のりも不中良の浪なり

必く此の道より水ありと云ふあり

二虎にて化転不流と云ふあり

満り水満り他地の志多し

垣積も多しと云ふあり

其の形も多しと云ふあり

蓬故

泉澄

斗水

一泉

五浮

佳矣

集甄

雲士

安や子幼上質一平がせく 志流

車戸の走りさくを心成り 一柳

空ふ米はやく喰ひ懐きり 彦太

細橋の鳴けハ細秘と志成り 石布

さあおああもせ考ると心も 雪径

月如るを夢しと無き初飛綿 仁室

月一宿をいふとたぐが 文水

曼陀羅の併の面への滅せぬ 赤空

*らやうりていふまのいほくといふあてとあるに子にうけた程とてかくい振の子とて方はし
ひきくららうの 1. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.*

らやく不痴癡をいふは 河野

栄頼きとくさうやむ程も 近思

漸きとくさうやむ程も 山 養史

其世を造しと云煙しうけ 可松

一ふ不恥新理学者の 之徳

海平しとくさうやむ程も 佳句

あゝ今や今やあふ入る 可好

村中平に月如る所の空かしと 鳥川

撫水とては松の多きとき 英家
 新集を以て行や如勝か是原 東島
 勢々ふんいと唄の志きすく 文車
 年今以りて茂乃とくくと 沈有
 連雀を尾成安忍して行や 魯節
 指しおとく客と物取の底借り 永花
 之為松の隠し 深定 松友
 月し子三方より来りて為かや 為翁

ちびうる夢如法く孫自然哉 已浪
 市如を彦孫輪か カキ 俗の唄 以千
 神の儿水工名に 形と以 永柱
 是くはと妙如早よの階を以 樗史
 糸如りしむり 以中如惣く 弘父
 義等して去年にありの旗原 一馬

右源氏行末歌

右牛あまの十三の巻のかたを多き事一とく

一
素
去
月

何
處
求
曉

星
流
熠
燿
曉
曉

月
叫
杜
鵑
聲
聲